平成19年度　集団健診追跡調査の詳細（PDF）

1　はじめに
　本会では、集団健診事業の評価の1つとして、一部検査において、要精検･要医療者の追跡調査を平成9年より行っています。
　平成19年度の追跡調査について以下にまとめました。

2　調査方法
①　対象者
　平成19年4月1日より平成20年3月31日までの間に実施した組合員健診受診者
②対象検査項目
　ペプシノゲン検査（＊1）、便潜血検査、前立腺特異抗原検査、甲状腺機能検査、喀痰細胞診検査　　（超音波検査は除く）
　　（注1）＊1　：　胃粘膜の萎縮の程度を調べる血液検査
③方法
　対象者のうち、対象検査項目において、要精検･要医療となった方に対し、健康診断結果票返却時、調査ハガキを同封しました。
　調査ハガキには、主治医により、精密検査所見及び治療方針を記入し、本会に返送していただきました。
　この返送結果を平成20年8月末時点で集計しました。

3　結果
1）　ペプシノゲン検査要精検者
　ペプシノゲン検査受診者3,217名、要精検者557名で要精検率は、17.3%であり、平成9年の開始時（34.6%）と比べ、年々減少傾向にあります。
　要精検者557名のうち追跡調査できた190名(34.1%)が病院受診しており、その中で治療方針として処置無しは37名でした。(図1)
　所見としては、胃炎が 80名、胃潰瘍が8名で両者を合わせると医療管理下に置かれたもののうちの57.5%をしめました。今年度は胃癌の所見者は確認できませんでした。（図2）

図1

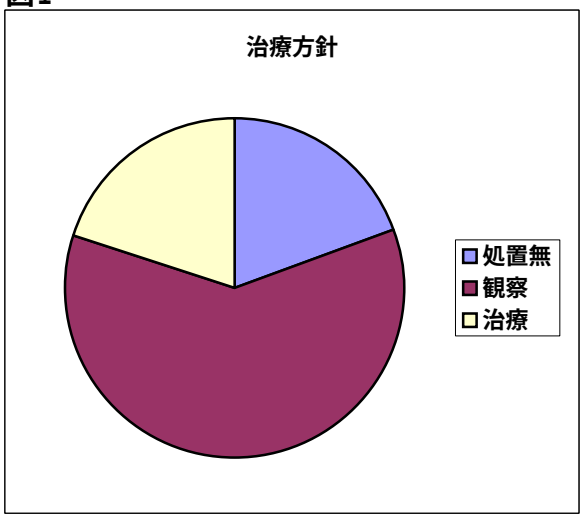
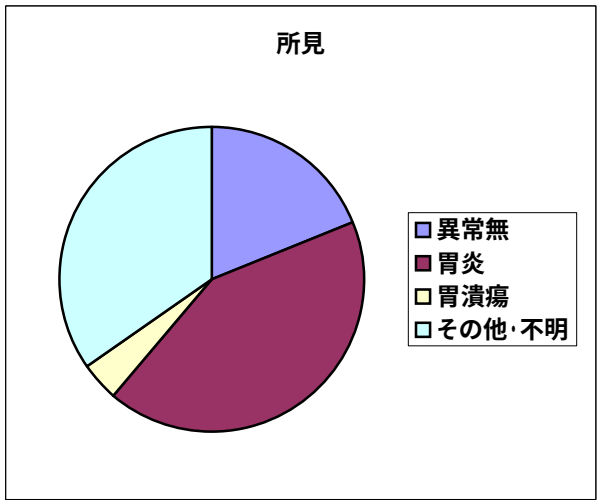


図2



2）　便潜血検査要精検者
　便潜血検査受診者8,043名、要精検者505名で、要精検率は6.3%でした。
　要精検者505名のうち追跡できた105名が病院受診しており受診率20.8%でそのうち処置無しは37名でした。
　病院受診した105名のうち観察及び治療をあわせると62名（59.0%）が、医療の管理下におかれていました。(図3)
　大腸癌は1名のみで、追跡できた者105名に対する大腸癌発見率は0.9%でした。（図4）

図3

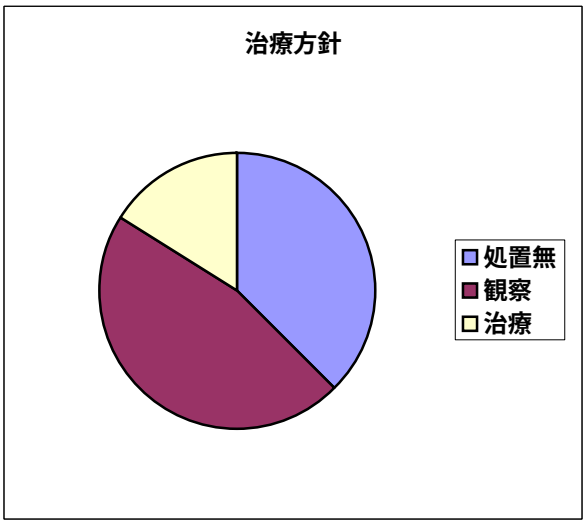
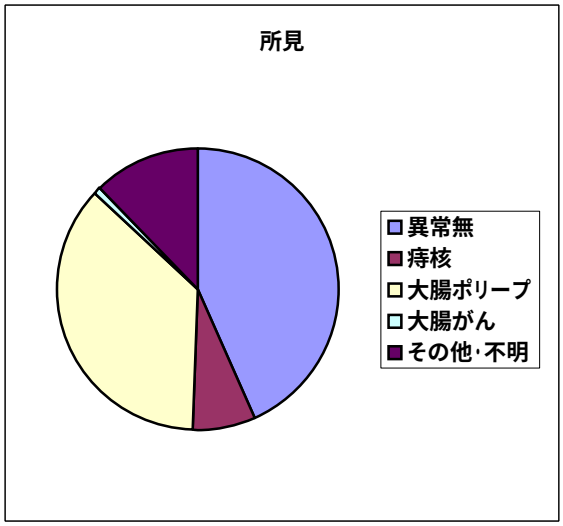


図4



3） 前立腺特異抗原検査要精検者

前立腺特異抗原検査受診者1,680名、要精検者84名で、要精検率は5.0%でした。

要精検者84名のうちの追跡調査できた16名(19.0%)が病院受診しており、その中で処置無しは2名でした。

病院受診した16名のうち経過観察が10名、治療が4名で両者を合わせると87.5%が医療の管理下におかれていました。

所見としては前立腺肥大症が5名で最も多く、前立腺癌は 2名、癌疑いは2名でした。

追跡調査できた16名のうち前立腺癌及び癌疑い発見率は 25%でした。（図5）

図5

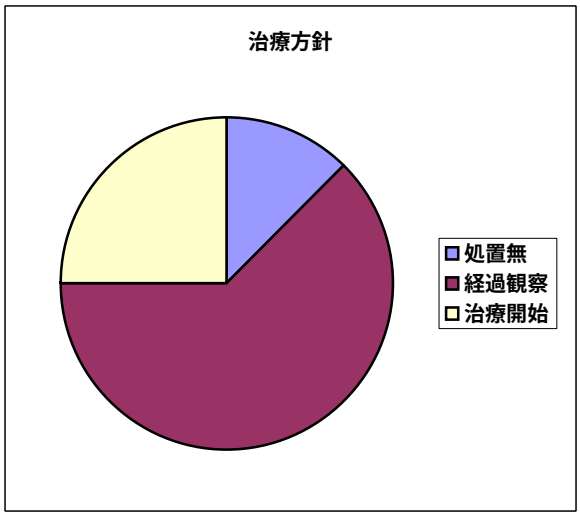
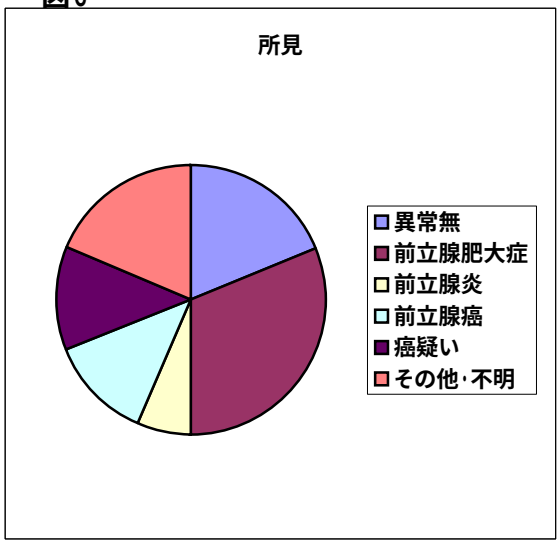


図6

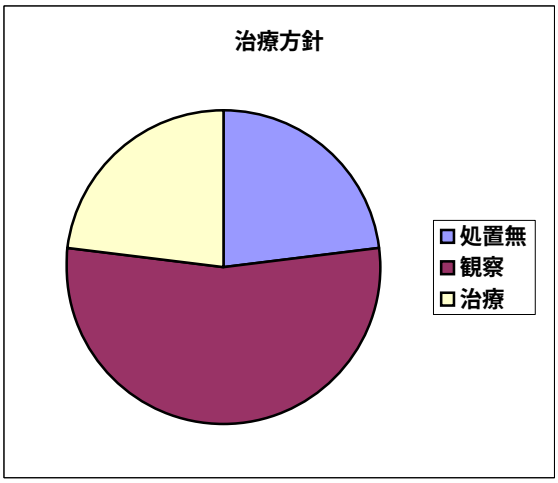


4） 甲状腺機能検査要精検者

甲状腺機能検査受診者数は1,408名で、要精検者は33名で、精検者割合は2.3%でした。

処置なしは3名、観察が7名、治療が3名でした。観察及び治療で医療管理下におかれたものは追跡できた者の76.9%でした。（図7）

図7



5） 喀痰細胞診検査

喀痰細胞診検査受診者990名、要精検者0名で、要精検率は0.0%でした。

4 まとめ

今回の追跡調査の結果を参考に、より適切な集団健診の受診勧奨及び事後指導を行って参ります。

今回の調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。